樋爪館
比爪館
肥爪館
火爪館

ひづめだて

2018. 2. 26
第８０号
ひづめ館懇話会

事務局　〒028-3310 紫波町日詰駅前1-10-2赤石公民館内 Tel 019-676-3999　会長 高橋敬明 Tel 090-3125-3776

—岩手県立博物館テーマ展『比爪ーもう一つの平泉ー』パンフレット15頁—

３ 比爪ー奥州藤原氏第二の拠点ー ③ 外縁遺跡

《柳田館(紫波町片寄字中平)(2)》

銅鏡は、直径9.7cmの円鏡で、二羽の鳥と秋草の萩、薄が表現されており、「萩薄双鳥鏡」と称されます。鳥の尾羽の形状と、薄の形状が12世紀前半以前を示す形態であり、12世紀第２四半期(1126～1150)頃のものであると推測されます。鏡の上端部ぎわに欠損部がみられますが、これは、鏡に紐を通して懸けるための意図的な穿孔と推測されます。鏡に穿孔して懸ける使い方の糸としては、鏡を仏に見立てる「御正体」としての使途が想定され、この鏡が、信仰対象のものとして使用された可能性を示しています。

銅鏡の年代は12世紀前半であることは確かであり、比爪初代の「藤原清綱」の時代の遺物と位置付けることが可能です。これは「清綱」の時代から「新山」が比爪にとって、信仰対象の山であった可能性を示す重要な証拠と位置付けられます。

≪≪≪　３月～４月行事予定のお知らせ　≫≫≫

３月２１日 （水曜日）	第90回 月例発表会	午後７時から午後９時まで ◎　会員発表 発表者　：　平　井　和　夫 テーマ　：　吾妻鏡と奥州平泉 11
４月１８日 （水曜日）	第91回 月例発表会	午後７時から午後９時まで ◎　会員発表 発表者：石 幡　信 テーマ：紫波郡の城館　1 ◎　歴史講談「火水の舞・金色堂物語」阿部朋巳 作 出演者：うすむらさき（岡村日出子） 演題：金色堂の建立 出演者：わかむらさき（佐藤いくみ） 演題：藤原泰衡の企み

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆　平成29年度紫波町文化財セミナー・発掘調査報告会(予告)　☆ ☆ ☆ ☆ ☆

紫波町教育委員会では、毎年度、埋蔵文化財発掘調査報告会を開催してきましたが、本年度から紫波の歴史文化連絡会が共催となり、講演会と町内郷土史関係団体活動報告を合せて行うことになりました。発掘調査報告では、比爪館遺跡と関連する南日詰大銀Ⅱ遺跡の第３次調査結果の報告が行われます。

なお、団体活動報告では、１０団体ほどが発表する予定ですが、当ひづめ館懇話会からも発表することになっています。紫波町内の郷土史関係団体の活動状況を共有する絶好の機会であり、新しい企画を盛り上げるためにも、会員の皆様の多数参加をお願いします。

１　期日　平成３０年３月１７日（土曜日）
２　会場　紫波町情報交流館（オガールプラザ内）　１階 市民交流ステージ
３　日程　13:00～13:25　開場、受付　　13:30～13:35　開会行事
13:35～14:55　講演会（仮題）紫波町内北上川渡船場の歴史　講師 長澤聖浩
15:00～15:40　埋蔵文化財発掘調査報告会（杉の上Ⅲ遺跡・南日詰大銀Ⅱ遺跡）
15:45～16:45　町内郷土史関係団体報告（６分 × 10団体）
16:50　閉会　　16:50～17:10　遺物解説

☀ ☀ ☀ 比爪館跡の発掘調査 No.46 ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀ ☀

比爪館 第31次・第32次発掘調査報告書＜学校法人紫波学園・紫波町教育委員会(平成27年3月発行)＞

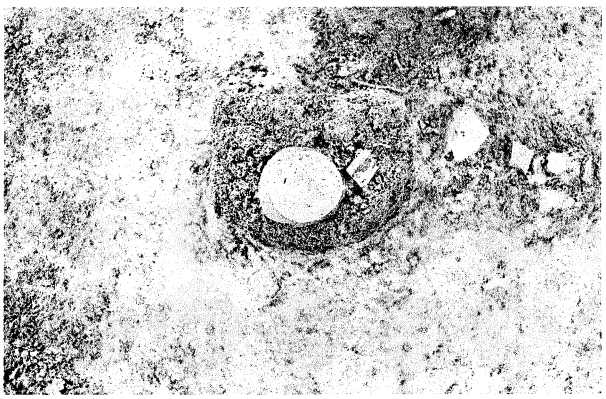
【第31次・第32次発掘調査】

5　総括(45・46頁)

□　溝跡

SD-052～SD-057(31次)は中世の溝跡で、SD-056・SD-057は幅広の溝跡であるが、人為的に埋め戻し新たにSD-053・SD-054溝跡を構築し、掘った土を東側に盛土し土塁状に成形されていた。２条に関しては、同じ構造で構築されている。しかし、検出面は１m幅なので、性格、目的等は今回の調査では分かりかねた。遺物はかわらけが出土している。今後延長方向を調査が出来れば、詳細を知ることが出来るであろう。SD-055は平安時代の溝跡の埋土から、あかやき土器 坏・甕、北陸型甕などが出土している。 今回比爪館跡から、形状は底部が丸底状で全体形が砲弾型を呈す北陸型甕(体部、底部片)が出土したことは稀であり、北陸地方との物流のルート及び交流を示す資料として、貴重な資料を得た。

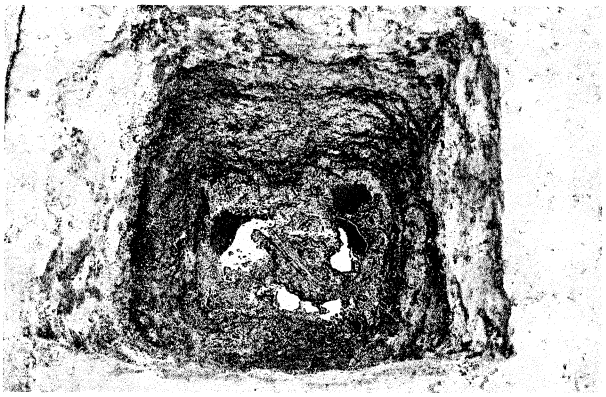
SD-058～SD-064(32次)は中世の溝跡である。各溝跡の埋土から多くのかわらけが出土している。また、SD-059は外大溝に突き抜けているが、ほかの溝跡は途中で途切れている。このことからも排水機能を持たない、区画溝の可能性が高いと考えられる。



SD-059　溝跡　出土遺物（南から）

□　井戸跡

SE-038～SE-041(32次)は中世の井戸跡である。各井戸跡の埋土からかわらけが出土している。SE-038・SE-039は人為堆積と思われる。また、SE-040の底面から井戸枠の一部と思われる木材（枠板・隅柱）が見つかっている。



SE-040　井戸跡　完堀（南から）

□　土坑跡

SK-184～SK-192(32次)は中世の土坑跡である。SK-189から土師質土器が出土している。SK-193(32次)は戦国時代(16世紀)の土坑墓跡と思われる。埋土から多くの鉄釘、小刀、鉄鏃、刀子、古銭(永楽通宝)などが出土した。副葬品と思われるが、土坑内に焼土がなかったことから他の場所で火葬され、この場所に埋葬されたと推測される。南部氏の家臣の可能性が考えられる。

□　陥し穴状遺構

NO-028(32次)は埋土から遺物が出土していないので正確な時期は不明であるが、これまでの調査結果から縄文時代のものと推測される。

□　柱穴跡

P-01～P-044(32次)は中世の柱穴跡である。 また、掘立柱建物跡に成りうる柱穴は確認出来なかった。

□　まとめ

第32次調査は、比爪館遺跡内東側の、ほとんど調査されていないエリアで実施した。以前調査を実施した隣接する第20次調査と、今回の第32次調査を総合的に考えると、東側には掘立柱建物跡(住居エリア)は無く、井戸跡が集中して検出されていることから、水汲み場のエリアと考えられる。また、調査区北側の大溝から、鉄滓がコンテナ１／３出土していることから、作業場（鍛冶）のような施設があった可能性が高いと考えられる。

これまで比爪館遺跡の東側は、ほとんど調査が行われていなかったが、今回の調査結果から、その周辺にも何らかの施設があると推測される。今後の調査が注目される。